

齒科医学総論

総論 I 保健・医療と健康増進〔約21%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 健康の保持・増進と社会保障の仕組み	ア 健康・疾病・障害の概念	a 健康の概念	
		b 健康に関わる要因	
		c 社会環境の変化	社会的決定要因
		d 疾病の自然史と対応	
		e 障害の概念と対応	
	イ 口腔と全身の健康増進	a 口腔の環境・機能	
		b 歯への沈着物	
		c 健康診断、口腔の診察・検査、スクリーニング検査	歯科疾患のリスク評価
		d 健康教育・学習、保健指導、健康相談	
		e 禁煙指導・支援	
	ウ 保健・医療・福祉・介護の法規と制度	a 医事衛生法規	
		b 保健衛生法規	
		c 医療保障・社会福祉・介護保険関連法規	
		d 予防衛生法規	
		e 薬事衛生法規	
		f 地域保健関連機関	
		g 福祉施設、介護施設	
		h 医療施設	
		i 医療関係職種	
		j 福祉・介護の制度と職種	
		k 医療連携、チーム医療	
		l 保健・医療・福祉・介護の制度と連携	
	エ 地域保健、地域医療	a 公衆衛生活動、地域保健活動	医療政策を含む
		b 医療計画、健康増進計画	
		c ヘルスプロモーション	
		d 地域保健活動の進め方	
		e 都道府県・市町村・保健所の歯科保健業務	
		f プライマリヘルスケア	
		g かかりつけ歯科医機能	
		h 救急・災害時等の歯科保健医療対策	トリアージを含む
		i へき地医療	
		j 在宅医療	訪問歯科診療を含む
	オ 地域包括ケアシステム	a 医療と介護の連携	
		b 介護予防、生活支援	
		c 地域包括支援センター	

大項目	中項目	小項目	備考
2 ライフステージ別にみた保健・福祉の制度	ア 母子保健、母子歯科保健と児童福祉	a 現状、動向	
		b 母性保健	
		c 母子歯科保健の意義	
		d 妊産婦の歯科保健	
		e 乳幼児の歯科保健と健康診査	
		f 児童福祉制度	
		g 児童虐待への対応	
	イ 学校保健、学校安全、学校歯科保健	a 現状、動向	
		b 学校保健の領域・内容	
		c 学校保健関係者	
		d 学校歯科保健教育	
		e 学校歯科保健管理	
		f 組織活動	
		g 学校安全	
	ウ 産業保健、産業歯科保健	a 現状、動向	
		b 労働安全衛生管理	
		c 業務上疾病、作業関連疾患	
		d 健康診断、事後措置	
		e 産業歯科保健の意義	
		f 産業歯科保健活動	
		g 職業性歯科疾患	
	エ 成人保健、成人歯科保健	a 現状、動向	
		b 特定健康診査、特定保健指導	
		c 成人歯科保健、成人の口腔保健管理	
	オ 高齢者保健、高齢者歯科保健	a 現状、動向	
		b 高齢者の特性	
		c QOL<quality of life>、日常生活動作<ADL>	
		d 高齢者歯科保健、高齢者の口腔管理	
		e 日常生活支援事業、介護予防	
	カ 障害児・障害者の保健・福祉	a 現状、動向	
		b 障害児・障害者の健康保持・増進	
		c 障害の種類と支援	身体障害、知的障害、精神障害(発達障害を含む)
		d 自立支援と福祉の制度	
		e 障害児・障害者の歯科保健医療	
3 歯科法医学	ア 死因の究明	a 死体解剖と死因究明制度	
		b 死後変化	
		c 個人識別、身元確認	
4 社会保障と医療経済	ア 社会保障と医療経済	a 社会保障制度	
		b 医療保険、介護保険	
		c 医療経済と国民医療費	

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
5 国際保健	ア 国際保健	a 世界の保健・医療の問題と方向性	
		b 国際保健、医療協力	
6 疫学と調査	ア 疫学とその応用	a 疫学の概念	
		b 疫学指標	
		c 統計解析	
		d 因果関係の成立	
		e 観察研究、介入研究	
		f 臨床疫学	
		g 歯科集団検診	
	イ 指標と調査	a 歯科領域における統計指標と疫学調査	
		b 人口統計、保健統計	
	ウ 口腔疾患の疫学要因	a 齲蝕の疫学要因	
		b 歯周疾患の疫学要因	
		c 不正咬合の疫学要因	
		d 口腔癌の疫学要因	
7 感染症対策	ア 感染症対策と疫学	a 感染症の疫学	
		b 感染症の予防	
		c 院内感染対策	
8 国民栄養と食生活・食育指導	ア 国民栄養と食品保健	a 国民栄養の現状	
		b 食事摂取基準	
		c 食生活指針	
	イ 食育と口腔保健	a 食育基本法	
		b 食の安全性と機能性	
		c 食の機能と口腔保健	
9 環境保健	ア 環境保健対策	a 環境要因と健康	
		b 地球環境の変化、健康影響	
		c 環境汚染、公害の発生要因、健康影響	
		d 環境汚染の評価と対策	
		e 廃棄物処理	
		f 放射線と健康	
		g 生活環境と健康	水、大気、温熱、騒音、振動など

総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢〔約17%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 細胞・組織・器官の構造と機能	ア 皮膚・粘膜系	a 表皮、上皮、真皮、粘膜固有層、皮下組織、粘膜下組織	
		b 付属器	
	イ 運動・骨格系	a 骨	頭頸部を除く
		b 筋	頭頸部を除く
	ウ 呼吸器・循環器系	a 気道、肺、呼吸筋	呼吸運動を含む
		b 心臓、脈管系	
	エ 消化器系	a 消化管	消化管ホルモンを含む
		b 肝臓、胆道、膵臓	
	オ 造血器系	a 骨髄	
	カ 泌尿器・生殖器系	a 腎臓、尿路	
		b 体液・電解質調節	
		c 生殖器、妊娠	
	キ 神経系	a ニューロン、グリア	神経伝達物質の合成・分泌・作用を含む
		b 感覚機能	
		c 運動機能	
		d 自律機能	
		e 高次神経機能	記憶、学習、睡眠、情動を含む
	ク 内分泌系	a 内分泌器官	
		b ホルモンの合成・分泌・作用	
2 生態系	ア 常在微生物		
3 免疫	ア 免疫系担当臓器・細胞		
	イ 抗原処理と抗原提示		
	ウ 自然免疫		
	エ 獲得免疫	a 体液性免疫	
		b 細胞性免疫	
	オ 粘膜免疫		
4 頭頸部の構造	ア 頭頸部の部位		
	イ 頭頸部の骨格系	a 頭蓋	
		b 頭蓋骨(関節、靱帯を含む)	舌骨、耳小骨を含む
		c 頸椎	
	ウ 頭頸部の筋系	a 顔面筋<表情筋>	
		b 咀嚼筋	
		c 浅頸筋	胸鎖乳突筋、広頸筋、舌骨上筋群、舌骨下筋群
		d 頸筋膜(浅葉、気管前葉、椎前葉、頸動脈鞘)	
	エ 頭頸部の脈管系	a 動脈系	
		b 静脈系	
		c リンパ系	

大項目	中項目	小項目	備考
	オ 頭頸部の内臓系	a 口腔	口唇、口腔前庭、固有口腔、口蓋、口{腔}底、頬、口峽
		b 唾液腺	
		c 舌、扁桃	
		d 咽頭、喉頭	
	カ 頭頸部の神経系	a 脳神経	
		b 脊髄神経	頭頸部に分布するものに限る
	キ 頭頸部の局所解剖	a 画像解剖	
		b 組織隙<筋膜隙>	
5 歯と歯周組織の構造	ア 歯の形態	a 基本事項	生物学的特性、生歯、歯式、方向用語、歯の外形、歯髄腔の形態、歯根の形態、三歯徴<三表徴>
		b 乳歯	
		c 永久歯	
		d 特殊な形態	
	イ 組織と性状	a エナメル質、象牙質、歯髄	
		b 歯周組織	
6 口腔・顎顔面の機能	ア 感覚	a 顔面皮膚、粘膜	
		b 味覚、嗅覚	
		c 象牙質、歯髄、歯根膜	
	イ 運動	a 反射	
		b 顎関節、下顎位、下顎運動	
	ウ 食物摂取	a 咬合接触、咬合様式	
		b 吸啜、咀嚼	
		c 嚥下、嘔吐	
	エ 発声、構音		
	オ 唾液分泌	a 唾液の性状・機能	
		b 分泌機構	
7 口腔の生態系	ア 常在微生物叢		
	イ プラーク<口腔バイオフィルム>		
8 人体の成長・発達・加齢	ア 小児の機能	a 運動・感覚機能	
		b 認知・言語機能	
		c 情緒・社会性	
	イ 発育区分における成長・発達の評価	a 身体成長の評価法	Kaup指数、Rohrer指数、BMI
		b 年齢による成長評価法	暦年齢、生理的年齢
		c 精神発達の評価法	精神年齢、発達スクリーニング検査
	ウ 口腔・顎の機能の発達	a 咀嚼・嚥下機能	
		b 唾液分泌機能	
		c 味覚	

大項目	中項目	小項目	備考
	エ 加齢・老化による 口腔・顎顔面の変 化	a 器質的変化	
		b 機能的変化	
9 口腔・顎顔面の 発生・成長・発 育	ア 頭頸部の形成	a 鰓弓<咽頭弓>	
		b 顎顔面(口蓋、顎関節を含む)	形成異常を含む
		c 舌、唾液腺	
	イ 歯・歯周組織の形 成と歯の萌出	a 初期発生	歯堤、歯胚
		b 歯の硬組織形成	
		c 歯周組織形成	
		d 歯の萌出	歯根形成を含む
	ウ 骨組織代謝	a 軟骨内<軟骨性>骨化、膜内<膜 性>骨化	
		b 形成、吸収、改造<リモデリン グ>	細胞間情報伝達を含む
		c 石灰化機構	血清カルシウム調節機構 を含む
	エ 頭部の成長・発育	a 頭蓋	
		b 歯列、咬合	

総論Ⅲ 病因、病態〔約9%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 病因、病態	ア 内因、外因		
	イ 細胞・組織の傷害	a 代謝障害(変性)	
		b 萎縮	
		c 細胞死	
	ウ 修復と再生	a 肥大、過形成(増生)	
		b 化生	
		c 再生	
		d 創傷治癒	
		e 異物処理	
	エ 循環障害	a 全身の循環障害	
		b 局所の循環障害	
	オ 炎症	a 概念	
		b 病因	
		c 分類と病態	
		d 炎症に関与する細胞	
	カ 感染症	a 概念	
		b 病原微生物	
		c 感染症	
	キ 免疫異常	a 概念	
		b 免疫不全	
		c 自己免疫疾患	
		d アレルギー反応(過敏症)	
	ク 腫瘍	a 概念	
		b 疫学	
		c 病因	
		d 分類と病態	
		e 組織学的構造	
		f 前癌状態、前癌病変	
		g 腫瘍と宿主の関係	
	ケ 疼痛	a 侵害受容性疼痛	
		b 神経障害性疼痛	
		c 心理社会的要因による疼痛	
		d 口腔・顔面領域の疼痛	
	コ 中毒、放射線障害	a 中毒の発生要因・病態生理	
		b 放射線の影響	
	サ 医原病	a 検査・診断に伴う医原病	
		b 治療に伴う医原病	
2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態	ア 主な病因・病態	a 先天異常	
		b 歯・歯周組織の疾患	
		c 口腔粘膜の疾患	
		d 軟組織の疾患	
		e 顎骨・顎関節の疾患	
		f 唾液腺の疾患	
		g 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全身疾患	

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	イ 歯の喪失に伴う変化・障害	a 口腔の変化	
		b 顎骨の変化	
		c 顔貌の変化	
		d 顎関節の変化	
		e 全身への影響	
3 個体の死	ア 概念		
	イ 判定		

総論Ⅳ 主要症候〔約4%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 全身の症候	ア 一般的症候		発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、けいれん、めまい、脱水、浮腫
	イ 皮膚・粘膜系		発疹
	ウ 呼吸器・循環器系		呼吸困難、息切れ、喘鳴、チアノーゼ、動悸、胸痛、不整脈、血圧上昇・低下
	エ 消化器系		食思〈欲〉不振、悪心、嘔吐、下痢、黄疸
	オ 運動・骨格系、造血器系、免疫系		貧血、出血傾向
	カ 泌尿器・生殖器系		
	キ 心理、精神機能		認知症、睡眠障害
	ク 神経系、感覚器系		頭痛、高次脳機能障害
	ケ 内分泌系(代謝、栄養を含む)		低血糖
2 口腔・顎顔面の症候	ア 歯、歯髄、根尖歯周組織		
	イ 歯周組織		
	ウ 歯列、咬合		
	エ 口腔粘膜		
	オ 顎骨		
	カ 顎関節		
	キ 舌、軟組織、唾液腺、リンパ節		
	ク 顔面		
	ケ 口腔機能障害		開口・閉口障害、咀嚼障害、摂食嚥下障害、発声・構音・発語障害、味覚障害、感覚障害、口腔乾燥

総論Ⅴ 診察〔約7%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 診察総論	ア 医療面接		
	イ 診察の基本		
	ウ 全身の診察		
	エ 救急時の診察		
	オ 根拠に基づいた医療<EBM>		
	カ 評価の基本	a バイタルサイン	
		b 意識レベル	Japan coma scaleを含む
		c 重症度と緊急度	
2 小児への対応	ア 身体的特徴		
	イ 心理社会的特徴		
	ウ 診察の基本		
	エ 年齢に応じた対応		
	オ 発達障害のある小児への対応	a 自閉スペクトラム症[自閉症スペクトラム障害]<ASD>	
		b 注意欠如・多動症[注意欠陥多動性障害]<ADHD>	
		c 限局性学習症[学習障害<LD>]	
3 障害者への対応	ア 障害の概念		
	イ 障害の分類	a 身体障害	
		b 知的障害	
		c 精神障害	発達障害を含む
	ウ 行動調整		
	エ 診察		
	オ 歯科治療上留意すべき事項		
4 妊婦・授乳婦への対応	ア 身体的特徴		
	イ 心理社会的特徴		
	ウ 診察		
	エ 歯科治療上留意すべき事項		
5 高齢者への対応	ア 診察	a 診察時の注意	
		b 既往歴・合併症の評価	
	イ 機能評価	a 日常生活動作<ADL>	
		b 手段的日常生活動作<IADL>	
		c 認知機能	
		d 運動機能	
		e 摂食嚥下障害	
		f 要介護度	フレイルを含む
	ウ 栄養評価	a 栄養アセスメント	
		b 栄養支援チーム<NST>	

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
6 全身疾患を有する者への対応	ア 留意すべき疾患	a 呼吸器疾患	肺炎、慢性閉塞性肺疾患<COPD>、喘息など
		b 循環器疾患	高血圧症、心疾患、脳血管疾患など
		c 消化器疾患	肝疾患など
		d 血液・造血器疾患	
		e 泌尿器・生殖器疾患	慢性腎不全など
		f 精神・行動の障害	認知症、統合失調症など
		g 神経・運動器疾患	Alzheimer型認知症、関節リウマチ、筋萎縮性側索硬化症など
		h 内分泌・代謝疾患	糖尿病、脂質異常症など
		i 感染症	結核、ウイルス性肝炎など
		j 悪性腫瘍	
	イ 身体的特徴		
	ウ 心理社会的特徴		
	エ 医療情報の収集		
	オ 診察		
	カ 医療連携、チーム医療		

総論Ⅵ 検査〔約13%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 口腔検査、顎口腔機能検査	ア 口腔検査	a 歯の硬組織の検査	
		b 歯髄・根管の検査	
		c 歯周組織検査	口腔清掃状態の検査を含む
		d 舌・口腔粘膜検査	
		e 歯列・咬合の検査	
		f 口臭検査	
	イ 顎口腔機能検査	a 下顎運動検査	
		b 顎関節・筋機能検査	筋電図検査を含む
		c 咀嚼機能検査	
		d 唾液・唾液腺検査	
		e 嚥下機能検査	
		f 発声・構音・発語検査	
		g 鼻咽腔閉鎖機能検査	
		h 感覚(味覚、体性感覚)の検査	
2 画像検査	ア エックス線画像の原理	a 電離放射線	電磁放射線、粒子放射線、放射能、放射性同位元素
		b 放射線の単位・測定	
	イ 画像検査における医療情報	a 医療画像システム<PACS>	画像情報DICOM規格、デジタル画像処理
	ウ 医療放射線被曝の防護と管理	a 正当化、最適化、線量限度	被曝低減3原則
		b 患者と医療従事者の放射線防護	医療被曝、職業被曝、公衆被曝
	エ エックス線単純撮影	a コントラストと分解能	
		b 口内法エックス線検査	
		c パノラマエックス線検査	
		d 顎顔面頭蓋部エックス線検査	
	オ CT	a 原理、特徴、適応	造影CT、歯科用コーンビームCT
	カ MRI	a 原理、特徴、適応	T1強調像、T2強調像、プロトン密度強調像、脂肪抑制像、造影MRI
	キ シンチグラフィ	a 原理、種類、適応	シングルフォトンエミッションCT<SPECT>、ポジトロンエミッション断層撮像<PET>
	ク 超音波検査	a 原理、特徴、適応	ドプラ法
	ケ 画像検査の安全管理	a 強磁場・電磁波・超音波の生体作用	
		b 造影剤と副作用	
	コ 画像の鑑別診断	a 正常画像と主要疾患画像	
		b 全身疾患の画像所見	胸部エックス線写真

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
3 検体検査	ア 検体検査	a 一般臨床検査	尿、糞便など
		b 血液学検査	血球検査、凝固・線溶系検査、血液型・輸血関連検査、赤沈など
		c 生化学検査	タンパク、生体色素、酵素、含窒素成分、糖代謝関連物質、脂質代謝関連物質、電解質など
		d 免疫血清学検査	炎症マーカー、自己抗体、血清学的診断など
		e 微生物学検査	染色法、培養検査、薬剤感受性など
		f 病理学検査	
		g 染色体・遺伝子検査	
	イ 検体の採取・保存・確認		個人情報管理
4 生体機能検査	ア 臓器機能検査	a 呼吸機能検査	パルスオキシメトリ、スパイロメトリ
		b 心機能検査	心電図、心臓超音波検査
		c 消化管機能検査	
		d 肝・胆道機能検査	色素排泄試験
		e 内分泌・代謝機能検査	
		f 腎機能検査	クレアチニンクリアランス、糸球体濾過率
	イ 電気生理学検査	a 脳波検査	
		b 筋電図・神経伝導検査	徒手筋力テスト
5 その他の検査	ア 皮膚検査	a 皮膚アレルギー検査	プリックテスト、皮内テスト、針反応テスト、パッチテスト
		b 皮膚知覚検査	二点識別検査、SWテスト
	イ 睡眠検査	a ポリソムノグラフィ	

総論Ⅶ 治療〔約16%〕

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
1 治療の基礎	ア 治療計画	a 治療計画の立案・提示	インフォームド・コンセント
		b 治療の評価	主訴の改善
	イ 治療の種類	a キュアとケア	
		b 原因療法と対症療法	
		c 保存療法と外科療法	
		d 緩和療法	
	ウ ライフステージ別の治療	a 小児の治療	
		b 成人の治療	
		c 高齢者の治療	
	エ 全身管理に留意すべき疾患・対象	a 皮膚・粘膜系	
		b 呼吸器系	呼吸不全、気管支喘息、誤嚥性肺炎
		c 循環器系	心筋梗塞、狭心症、不整脈、高血圧症、深部静脈血栓症、心不全、心内膜炎、弁膜症
		d 消化器系	消化性潰瘍、急性・慢性肝炎、肝硬変
		e 血液・造血器・リンパ系	貧血、白血病、出血性素因
		f 泌尿器・生殖器系	慢性腎臓病
		g 精神系	認知症、統合失調症、うつ病
		h 神経系	脳内出血、脳梗塞、くも膜下出血、てんかん、Alzheimer病、Parkinson病
		i 内分泌系	糖尿病、骨粗鬆症、甲状腺疾患
		j 免疫・アレルギー	免疫不全、膠原病、アレルギー性疾患、後天性免疫不全症候群<AIDS>
		k 感染症	ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症
		l 小児	
		m その他	アルコール・薬物依存症、妊婦、臓器移植患者、菌交代現象<菌交代症>
	オ 障害者の治療		
2 歯・歯周組織・咬合の治療	ア 基本的術式	a 歯の硬組織疾患の治療	
		b 歯内療法	
		c 歯周治療	
		d 歯の欠損の治療	
		e 不正咬合の治療	
3 救急医療	ア 一次救命処置	a 心肺蘇生	
		b AEDの使用	
		c 気道異物に対する対応	

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	イ 二次救命処置	a 高度な気道管理	
		b 静脈路確保と薬物療法	血管収縮薬、抗不整脈薬
		c 電氣的治療	
	ウ 誤飲・誤嚥に対する対応		
4 手術・周術期の管理、麻酔	ア 手術	a 手術の適応と時期	
		b 消毒と滅菌	標準予防策<standard precautions>
		c 切開法	
		d 止血法、縫合法	
		e 穿刺、切開排膿、ドレナージ	
		f 抜歯、口腔の小手術	偶発症を含む
		g 移植術、再建手術	
		h 創傷の治療	
	イ 周術期の管理	a 口腔環境の評価	
		b 全身状態の評価	
		c 全身的併発症、合併症	
		d 術前管理	
		e 術中管理	
		f 術後管理	疼痛管理、感染予防、栄養管理
		g 外科的侵襲に対する反応	
	ウ 麻酔	a 局所麻酔	局所麻酔薬、血管収縮薬
		b 全身麻酔	吸入麻酔薬、静脈麻酔薬、麻酔前投薬、筋弛緩薬とその拮抗薬、麻酔補助薬、日帰り全身麻酔
		c 術前・術中・術後管理とモニタリング	
		d 精神鎮静法	吸入鎮静法、静脈内鎮静法
5 緩和医療とターミナルケア	ア 疼痛管理とQOL<quality of life>	a 癌性疼痛	
		b ペインコントロール	オピオイド<医療用麻薬>
	イ 緩和ケア		
	ウ ターミナルケア		
6 リハビリテーション	ア リハビリテーションの概念		急性期、回復期、維持期<生活期>、自立生活支援
	イ リハビリテーションの技術	a 摂食嚥下障害のリハビリテーション	咀嚼障害、摂食嚥下障害
		b 発声・構音・発語障害のリハビリテーション	
		c 口腔機能管理	
7 放射線治療	ア 放射線治療の生物学的・物理学的基礎	a 放射線感受性、生物学的効果、放射線の治療効果	
	イ 口腔領域の放射線治療	a 治療の意義と目的	
		b 種類、適応、特徴	

大項目	中項目	小項目	備考
8 薬物療法	ウ 放射線治療患者の有害反応と口腔管理	a 有害反応の種類と特徴	
		b 有害反応に対する口腔管理	
	ア 薬物の選択	a 薬物療法の種類と特徴	
		b 薬効	薬物の作用部位・作用機序
		c 薬物動態	吸収、分布、代謝、排泄
	イ 用法と用量	a 投与経路と剤形の種類と特徴	
		b 用量と反応	
		c 服薬計画・指導	
		d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策	
		e 薬物適用の注意	薬物の連用・併用、薬物・食物・嗜好品との相互作用、薬効に影響を及ぼす身体的要因
	ウ 疾患に応じた薬物治療	a 鎮痛薬	
		b 抗炎症薬	
		c 抗感染症薬	
		d 抗腫瘍薬	
		e 代謝改善薬、ビタミン	
		f 止血薬、抗血栓薬	
		g 齦蝕予防薬	
9 その他の治療法	ア 物理療法		温熱、寒冷、電気、マッサージ、超音波治療
	イ 運動療法		筋機能療法
	ウ 凍結療法		
	エ レーザー療法		
	オ 免疫療法		
	カ 酸素療法		高気圧酸素療法
	キ IVR<Interventional Radiology>		動注化学療法、動脈塞栓術
	ク 食事・栄養療法		経口栄養、経腸栄養、経静脈栄養
	ケ 輸液・輸血療法		
	コ 精神療法		一般心理療法、カウンセリング、自律訓練法、行動療法、認知行動療法

総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器〔約13%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 生体材料の科学	ア 材料の種類	a 有機材料	
		b 無機材料	
		c 金属材料	
		d 複合材料	
	イ 材料の性質	a 物理的性質	
		b 機械的性質	
		c 化学的性質	
		d 生物学的性質と生体安全性	
2 診療用器械・器具	ア 診療用器械	a 歯科用ユニット	
		b エアタービン	
		c マイクロモーター	
		d レーザー装置	
	イ 切削・研削工具、研磨材		
3 印象用材料	ア 非弾性印象材	a 酸化亜鉛ユージノール	
		b モデリングコンパウンド	
		c 印象用石膏、印象用ワックス	
	イ 弾性印象材	a アルジネート	
		b 寒天	
		c シリコーンゴム、ポリエーテルゴム	
	ウ 機能印象材		
	エ 印象用トレー		
	オ 咬合採得用材料		
4 模型用材料、ワックス	ア 歯科用石膏	a 普通石膏、硬質石膏、超硬質石膏	
	イ 歯科用ワックス	a インレーワックス	
		b パラフィンワックス、シートワックス、レディキャストイングワックス、スティッキーワックス、ユーティリティワックス	
5 成形修復・予防填塞・歯内療法用材料	ア 成形修復用材料	a コンポジットレジン	
		b グラスアイオノマーセメント、レジン添加型グラスアイオノマーセメント	
	イ 予防填塞用材料		
	ウ 歯内療法用材料	a 根管充填材	
		b 仮封材、裏層材、覆髄材	
6 歯冠修復・義歯用材料	ア 高分子材料	a 加熱重合型アクリルレジン、常温重合型アクリルレジン	
		b ポリスルフォン、ポリカーボネート	
	イ セラミックス	a 陶材	金属焼付用陶材を含む
		b ジルコニア、アルミナ、ガラスセラミックス	

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	ウ 金属材料	a 金合金	
		b 銀合金、金銀パラジウム合金	
		c 陶材焼付用合金	
		d コバルトクロム合金	
		e チタン、チタン合金	
		f ステンレス鋼、歯科用磁性合金	
	エ 複合材料	a 間接修復用コンポジットレジン	
	オ 人工歯		
	カ 義歯床用裏装材		軟質裏装材を含む
	キ 支台築造材		ファイバーポストを含む
7 成形技術・機器	ア レジンの成形技術・機器	a 加熱重合	
		b 常温重合(流し込み成形)	
		c 光重合	
		d 加熱・加圧成形	
	イ セラミックスの成形技術・機器	a 陶材の築盛・焼成	
		b 陶材と金属の接合	
	ウ 金属の成形技術・機器	a 鋳造工程	
		b 石膏系埋没材、リン酸塩系埋没材	
		c 鋳造精度、鋳造欠陥	
		d ろう付け、ろう材	
		e 溶接、鋳接	
		f 塑性加工、焼なまし	
		g 軟化熱処理、硬化熱処理	
	エ CAD/CAM		
8 接着処理・技術	ア 接着性モノマー		
	イ 歯質接着処理	a エナメル質被着面処理	
		b 象牙質被着面処理	
	ウ 歯科材料接着処理	a セラミックス被着面処理	
		b 金属被着面処理	
9 装着用材料	ア 合着・接着用セメント	a レジンセメント	
		b グラスアイオノマーセメント、レジン添加型グラスアイオノマーセメント	
		c ポリカルボキシレートセメント	
		d リン酸亜鉛セメント	
	イ 仮着用セメント		酸化亜鉛ユージノールセメント、EBAセメントを含む
10 歯科矯正用材料	ア 線材料		ステンレス鋼、コバルトクロム合金、ニッケルチタン合金、チタンモリブデン合金
	イ バンド、ブラケット、チューブ		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	ウ エラスティック材、コイルスプリング		
	エ 接着用材料		
	オ 床用レジン、熱可塑性樹脂		
11 口腔インプラント・口腔外科・歯周治療用材料	ア 口腔インプラント用材料		
	イ 骨補填用材料		
	ウ 骨接合・顎骨再建用材料		
	エ 細胞遮断膜		